



時間と空間を超えて 共に学び共に成長する場

— お茶の水女子大学附属図書館の将来構想 —

2014年6月5日(木)

New Education Expo 2014

～これからの大学図書館～

お茶の水女子大学
図書・情報チーム
森 いづみ

本日の内容

- お茶の水女子大学の概要
- これまでの取組みと課題
- 新しい展開：新図書館構想
- 新しい展開：学習支援
- これからの大学図書館

お茶の水女子大学の概要

- 1875年(明治7年) 東京女子師範学校開校 開学
- 学生:約3,000名 + α
 - 学部生:約2,000名(3学部) 大学院生:約1,000名(1研究科)
 - 研究生、科目等履修生、聴講生、etc.
- 教職員:約500名 + α
 - 教員:約300名 職員:約100名 附属学校園:約100名
 - リサーチ・フェロー、アソシエイト・フェロー、非常勤講師
 - アカデミック・アシスタント、ティーチング・アシスタント
- キャンパス内に様々な世代の学びの場が集結
 - ナーサリー(保育園)、幼稚園、小学校、中学校、高校(女子)

お茶の水女子大学の理念

- 大学憲章に掲げられた標語
 - 「お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する。」
- ミッション
 - グローバルに活躍する女性リーダーの育成
- 校歌「**みがかずば**」
 - みがかずば 玉もかがみも なにかせん
学びの道も かくこそありけれ
- 附属図書館の理念(2006年制定)
 - 「お茶の水女子大学附属図書館は、**時間と空間を超える知的交流の場**であり、**次世代の知を創造し発信する学術情報基盤**として機能する。」

本日の内容

- お茶の水女子大学の概要
- これまでの取組みと課題
- 新しい展開：新図書館構想
- 新しい展開：学習支援
- これからの大学図書館

図書館のLearning Commons:

[共に学び・共に成長する] -1

- お茶大は全国に先駆けて設置(2007年)
 - ー 現在では200以上の大学が設置(ここ3年で2倍)
 - ー アクティブ・ラーニング・スペースと総称される
- お茶大は3つのエリアで構成
 - ー ラーニング・コモンズ(2007年4月)
 - ー 情報基盤センターのパソコンが約70台、ラーニングアドバイザ(LA)が常駐
 - ー クイックスタンド、自習用、講習会にも使えるエリアなど、用途別のレイアウト
 - ー キャリアカフェ(2007年12月)
 - ー おしゃれな雲型テーブルとカラフルな椅子、レイアウト自在のグループ学習の場
 - ー 図書館の本や自動貸出ロッカーパソコンを持ってきて学習に使える
 - ー ラウンジ
 - ー ゆったりとした寛ぎのスペース、月に一度はピアノコンサートも実施
 - ー 新聞やマガジン、大テーブルやソファなど

・1日の平均入館者数:
約1,000名
ピーク時:約2,000名
・ラーニング・コモンズ/
キャリアカフェ設置
(06→09年度)入館者
60%増

図書館のLearning Commons:

[共に学び・共に成長する]-2

- Commonとは

- 語源: communis: 共有の、共通の、共同の
Cum(と一緒に、共に) + munus(義務、責任)

[出典] SPACE ALC 語源辞典

⇒共に責任を果たす

- ラーニング・コモンズとは

- コモンズ: 地域共同体を示す概念。共有地、公共の広場を意味する。
- 図書館や大学などの施設で自学学習をする利用者の利用目的や学習方法にあわせ、図書館資料やICT(情報通信技術)を柔軟に活用し、効率的に学習を進めるための人的な支援を含めた総合的な学習環境のこと。

[出典] Japan Knowledge

ニッポニカプラス

⇒共に学び・共に成長する

・リーダーシップ教育のキーワード “Migakazuba”

Respect for others(心遣い) / Intelligence(知性) / Confidence(しなやかさ)

・リーダーに必要な力＝共にあることで育まれる

by羽入学長

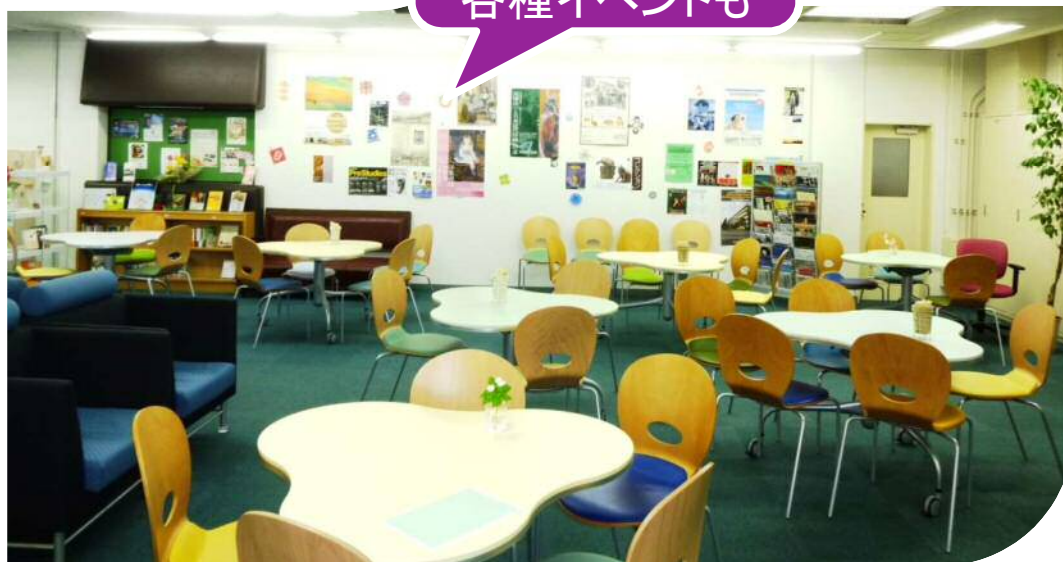


ドリンク
自販機



ラーニング・
コモンズ
パソコン70台

キャリア・カフェ
進路相談や
各種イベントも



- ・1階はオープンなコミュニケーションスペース
- ・誰でも入館可能
- ・おしゃべり、息抜き、飲みもの持ち込みも可
- ・イベント利用も歓迎

2013/6/14 16:30頃の キャリアカフェ



2013/6/14 17:00頃の キャリアカフェ



学生主導の
「出る杭マーケティング講座」
新しい商品開発

改革の3つの柱

- 空間機能・・・だけではない
- 蔵書・コンテンツ
 - － 学生用図書の実
 - － 21世紀型リベラルアーツのテーマに応じた多彩な資料
 - － 研究用コンテンツの実
 - － 電子ジャーナルのタイトル:2,400→13,000
- 人的支援
 - － 学生インターンシップの枠組で図書館サポーターを組織
(LiSA: Library Student Assistant)
 - － 4月～9月、10月～3月 年2回募集
 - － 2007年11月スタート(第1期:13名、現在第14期:39名)
 - － 合計186名(のべ409名)が参加
 - － ラーニング・コモンズのヘルプデスクを設置
 - － ラーニング・アドバイザー(TA)がPC等のトラブル解決

参考: LiSA (Library Student Assistant)

- 学生と図書館スタッフの協働による 図書館活性化のための活動
(学内インターンシップの一環)
- 2007年(平成19年)11月～実施し、以来193名(のべ438名)が参加
- 半期ごと。終了時にレポート提出。修了証書(学長、図書館長連名)を発行
- 第14期LiSA(31名)
 - － 文教育:16名、理:5名、生活:9名、研究科:1名
 - － 1年:4名、2年:11名、3年:11名、4年:4名、M2:1名
- 目標:『LiSAの取組みを繋ぐ・伝えるための実践』
- LiSAの活動
 - － キックオフミーティング 5月8日(木)12:20-13:00
 - － 通常業務:図書の選書、装備、修理、書架整理、蔵書点検等
 - － 自主企画、キャリアカフェ文庫の運営など
 - ・バリアフリー絵本展示(仮称)(代表者:文教育学部3年)
 - ・図書館サポーターの集い(仮称)(代表者:理学部3年)
 - ・学園祭(徽音祭)でのポスター発表
- LiSAブログ: <http://ochadailisa.blog32.fc2.com/> (エントリー数:2007年～803件)



お茶大図書館のラーニングコモンズ

- ラーニングコモンズを早い時期(2007年)に設置
- ラーニングアドバイザー(LA)が常駐
- 図書館のカフェでキャリア教育関連のイベントや学生の自主企画イベントが目白押し

→ラーニングコモンズといえばお茶大

→改修や身近な工夫で実現しているから参考になりそう



実際良く
使われている



ハッピー
オーラ♪

悩みごと-1

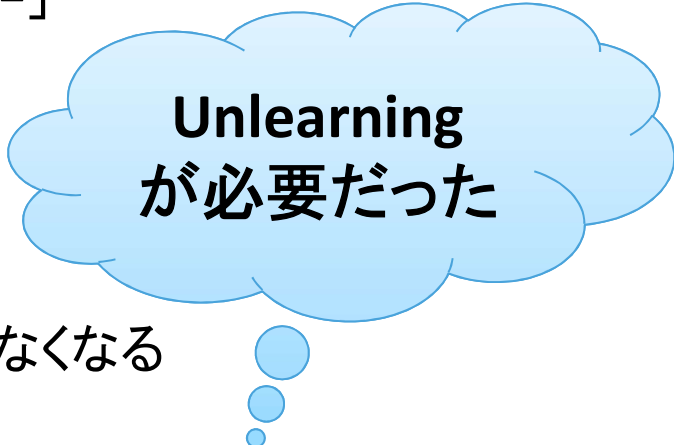
空間／人的支援に関すること

- 経費（LAの人件費／PC導入・保守費）

- － 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-」
→平成25年度で終了

- 規模

- － いつも混んでいる、席と席が近い
- － イベントをしていると自習スペースが足りなくなる



Unlearning
が必要だった

- 中身

- － LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
→それって「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
→いわゆる「アクティブ・ラーニング」の場になっているの？
- － 情報リテラシー教育支援のあり方は？

悩みごと-2

蔵書・コンテンツに関すること

● 蔵書の配置

- － 全学蔵書68万冊の半分が24か所の学科等図書室＋研究室に分散
 - ✓ キャンパス・マスタープラン(平成25年6月)で指摘
 - ✓ 平成24年度「外部評価報告書」(平成25年8月)で指摘
 - ✓ 学生からも、研究室配置の図書が使いづらいとの声

● コンテンツ経費

- － 円安影響／間接経費縮減傾向
 - ✓ 電子コンテンツ経費確保に課題

● 学生用図書／コンテンツのあり方

- － 選書の在り方(何を)、提供の在り方(どのような形で)
- － シラバスとの連携／教育との連携

本日の内容

- お茶の水女子大学の概要
- これまでの取組みと課題
- **新しい展開：新図書館構想**
- 新しい展開：学習支援
- これからの大学図書館

新しい展開-1

- 新図書館構想に取り組むことに(6月)
 - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
 - サブグループ(空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成)を設置
 - メンバーは、教員4名、職員4名
- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに(11月)
 - 寄付事業
 - 一部局から全学へ



ピンチは
チャンス！

新しい展開-2

- 新図書館構想WG報告書を提出(2月)

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして:
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱(ビジョン)

(1) 知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります

(2) 創造的学びの場としての空間機能を提供します

(3) 人類智が交差する場として人と人とのつながりを

支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

新しい展開-3

● 開学140周年記念募金：附属図書館の増築



キャンパスの中心に位置している現在の附属図書館は、平成19年度より「ラーニング・コモンズ」と「キャリアカフェ」を設置し、それを機に文系理系の区別なく常時学生で賑わっています。

本学の「ラーニング・コモンズ」は国内でもっとも早期に実践した例として広く知られ、見学に訪れる大学関係者も少なくありません。また、いちはやく未公開の学術書を「E-book」として公開したことにより、平成25年度、国立大学図書館協会賞を贈られております。

今回の増築計画では、「時間と空間を超えて共に学び共に成長する場」として図書館を位置付け、「ラーニング・コモンズ」の拡充と、自学自習スペース、生涯学習スペース、コミュニケーションスペースの新設などを予定しており、学生のみならず卒業生の皆さまにもご活用いただける施設にしたいと思います。

新図書館構想WGの取組み-1

- 建築の専門家を招いた勉強会



新しい学びの
場として
どんな空間が
必要なのか？

新図書館構想WGの取組み-2

- 電子教材についての勉強会



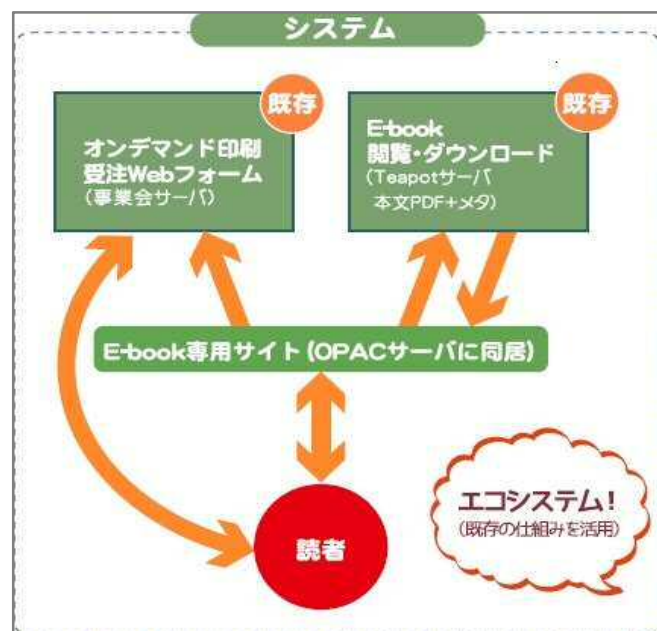
千葉大学アカデミック
リンクセンター関係者
教育開発センター
情報基盤センターの
先生方も参加

アクティブラーニング
のためにはどんなコ
ンテンツが必要？
課題は何？

参考：お茶大E-Bookサービス

- E-bookサービスとは、お茶の水女子大学が2012年3月に開始した出版事業
- 本学の教職員・学生による教育・研究成果の出版を支援する目的で構築
- 機関リポジトリ(TeaPot)の既存のシステムを活用しているため低コストで開発運用
- 学内外の関連組織が協働して運用に当たるエコシステム
 - データ(書誌情報と本文)はTeaPotに搭載
 - 電子書籍の顔としてE-bookサービスの専用サイトから公開。
 - 希望があればオン・デマンド印刷による冊子の有償販売を行っている。

参考：お茶大E-Bookサービス



参考：お茶大E-Bookサービス

①IRに出版機能を持たせることで、出版会を持たない小規模な大学でも図書出版が可能であることを実証した。IRの有用性を高め、研究者や大学、社会に新たな便宜をもたらした。

②著者、附属図書館、お茶の水学術事業会という三者が協働して出版する体制を構築することにより、経費や実務の大きな負担増なく出版事業を実現していること、IRを活用した出版公開と、オン・デマンド出版による製本の有償販売の仕組みを構築することで、商業ベースでは困難と考えられる図書の出版・流通を可能とした。

国立大学図書館協会
平成25年度 協会賞受賞

参考：お茶大E-Bookサービス

反転授業の
きっかけになるかも？！

- お茶大E-Bookサービスによる理系教科書
「Javaプログラミング入門」の出版（2013/10/28）


Javaプログラミング入門
 ISBN: 978-4-904793-04-6

B! 694
 いいね! 236
 ツイート 222

表題紙		PDF閲覧	ダウンロード
まえがき / 謝辞 / 本書の構成 / 学習を始める前に / 目次	p.02-07	PDF閲覧	ダウンロード
1 計算	p.08-12	PDF閲覧	ダウンロード
2 条件分岐	p.13-17	PDF閲覧	ダウンロード
3 反復・配列	p.18-25	PDF閲覧	ダウンロード
4 クラスとメソッド	p.26-34	PDF閲覧	ダウンロード
11 【課題】	p.71-75	PDF閲覧	ダウンロード
ここにまでに紹介されたプログラムを拡張してみよう			
12 【付録A】プログラミングとは	p.76-77	PDF閲覧	ダウンロード
13 【付録B】初めてのLinux環境	p.78-87	PDF閲覧	ダウンロード
索引 / 参考文献 / 奥付	p.88-90	PDF閲覧	ダウンロード

DL数：8,883回
 （2014.5現在）


 著者 伊藤貴之先生

アクティブ・ラーニングって？

- 「読解・作文・討論・問題解決活動において分析・総合・評価のような高次思考課題を行う学習スタイル」

山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6

- ...Student must do more than just listen: They must read, write, discuss, or be engaged in solving problems.

Charles C. Bonwel and James A. Eison “Active Learning: Creating Excitement in the Classroom” ASHE-ERIC Higher Education Reports, 1991

○ ○ ○
能動的学習：受動的学習
≠ 動的学習：静的学習 両方の要素
があるのでは？

アクティブ・ラーニング実践例-1

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education” <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf>
ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

- ✓ チーム作業：自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることを体験してもらうため、チームによる作業が基本
- ✓ ワークショップ：結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う
- ✓ 現場調査や専門家の参加：机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

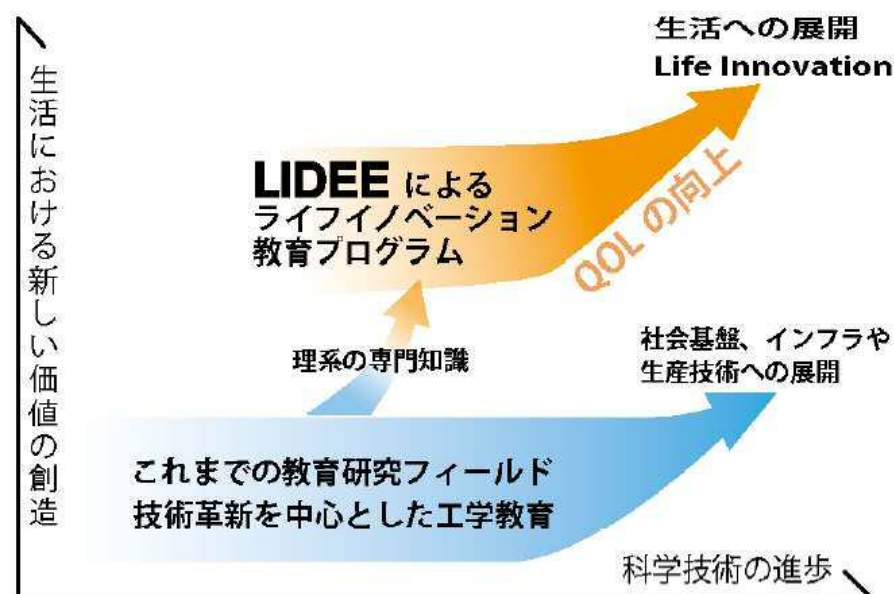
アクティブ・ラーニング実践例-2

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education”

LIDEEの活動から見た求められる空間

- ✓ ワークショップの場所
- ✓ 発表・講評の場所
- ✓ 情報の加工の課題

＋事前調査やアイデア出しのスキルも必要？



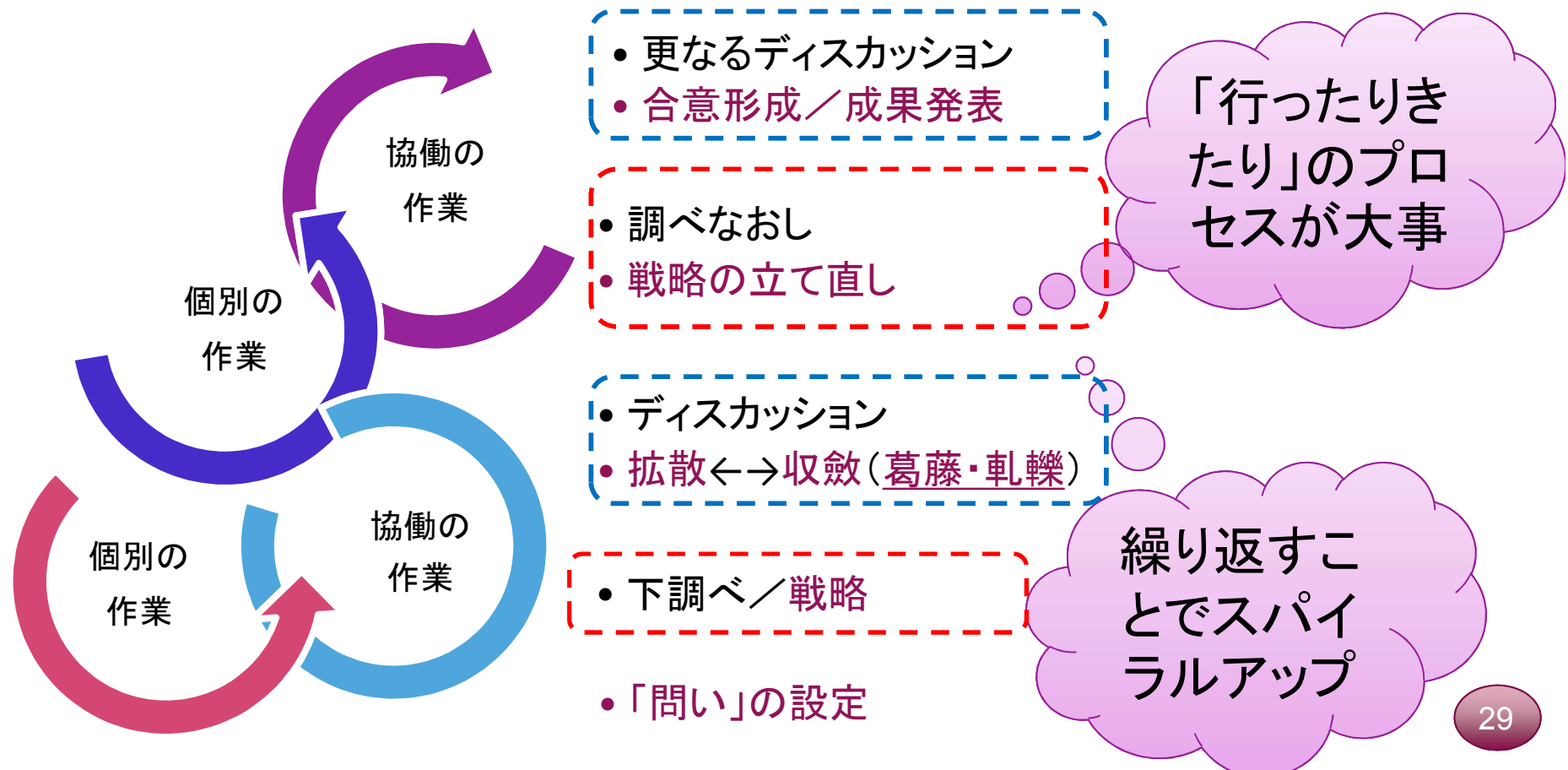
出典：松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』

平成25年9月10日 新図書館構想WG第2回打合せ資料

URL: <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee.html>

アクティブ・ラーニングって？ -2

- 学修のプロセスは一方方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない



WGの教員から出てきた言葉

- 研究と教育は一体
＝職住接近で研究室ごと図書館に引っ越す？
- 研究室で行われていること
＝アクティブ・ラーニングそのものではないのか？



写真:お茶の水女子大学 公式Webサイトより
<http://www.ocha.ac.jp/>

新図書館構想WGの取組み-3

● 図書室を有する学科等へのアンケート

– 24か所の学科等図書室中、20か所から回答

✓ 学科によってスタンスはマチマチ

✓ 学科によっては、共通図書室のものと研究室置きのものが混在

URL http://www.lib.ocha.ac.jp/anq/anq_lib.html

● 教員へのアンケート

– 有効回答数:105 (全体の1/3)

✓ 蔵書・コンテンツ:

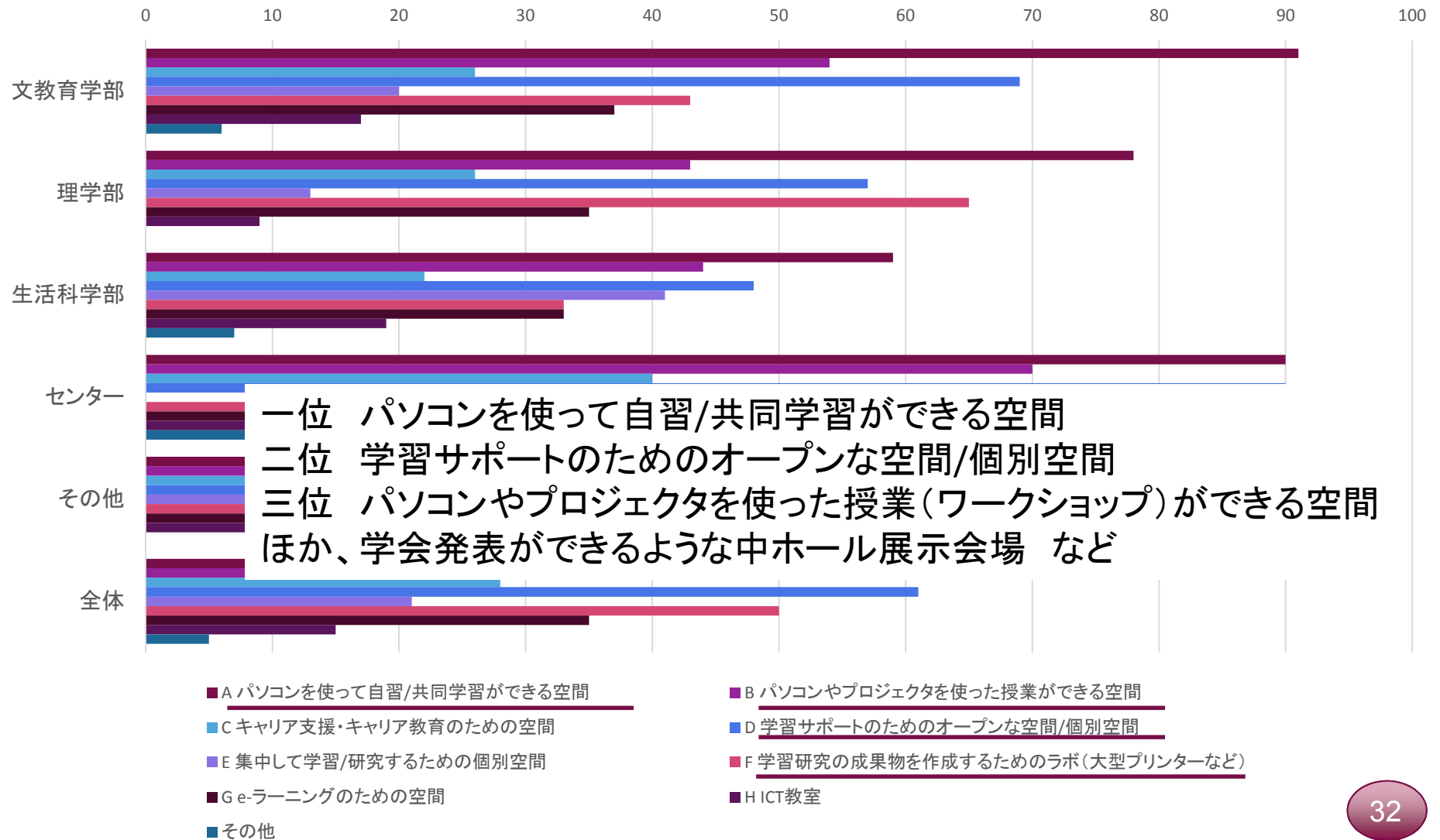
✓ 学修空間:アクティブラーニングのために必要なスペース

✓ 人的支援:ピアサポートについて／必要な知識・スキル／期待等

URL http://www.lib.ocha.ac.jp/anq/anq_kyoin.html

教員アンケート結果分析 (井上さんまとめ)

アクティブラーニング(能動的学修)のために必要なスペース



新図書館構想WGの取組み-4

● 学生へのアンケート

- LA科目「知覚認知と環境デザイン」(第4回)のワークシート
- 有効回答数: 180(1学年500人 1-2年生中心 全体の1割)

(1) 図書館の中に、お気に入りの場所がありますか？

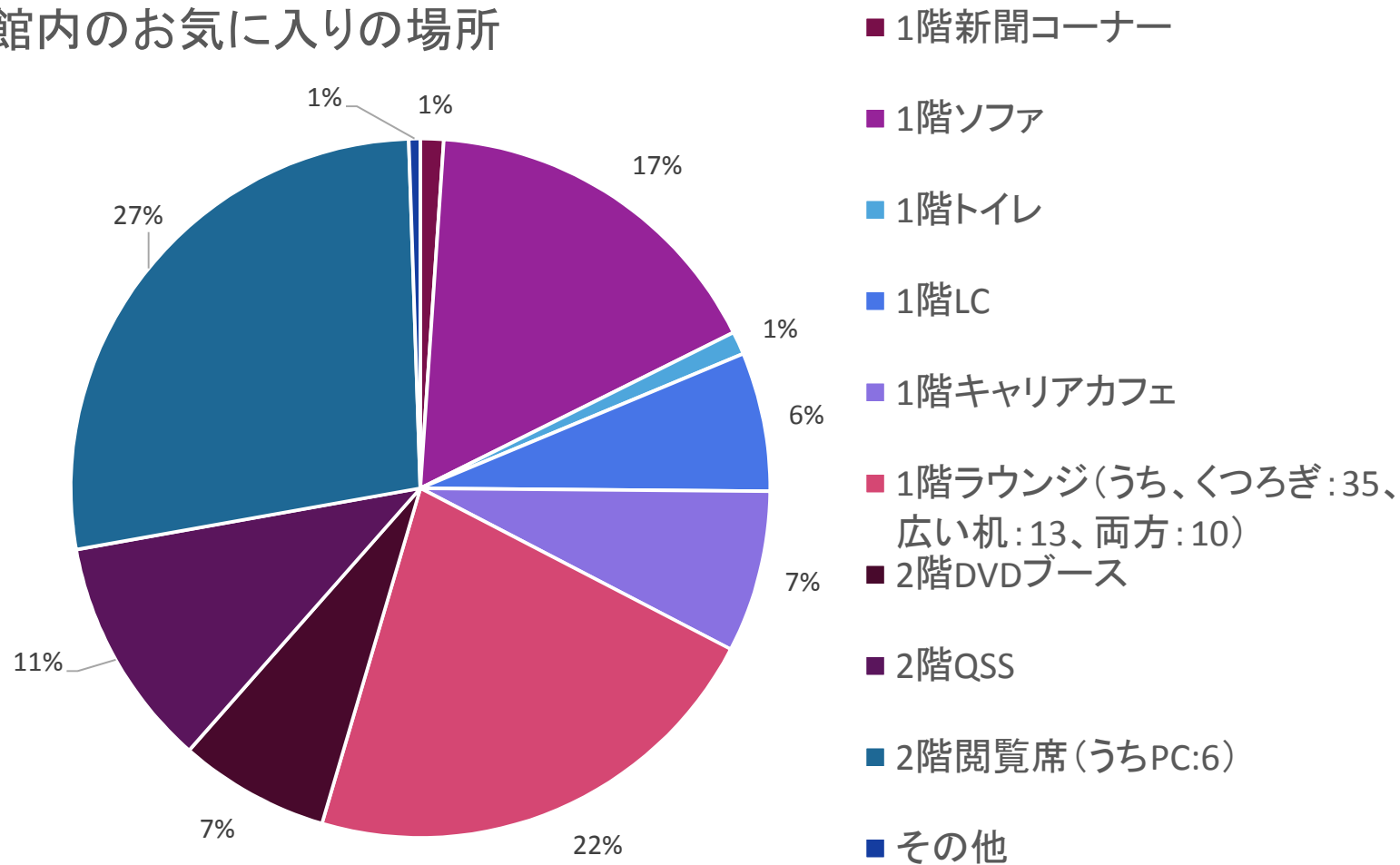
- それはどこですか？ 2階閲覧席／1階ラウンジ／1階ソファ
- どうしてお気に入りなのですか？ 集中できるから／集中・コミュニケーション両方／寝られるから

(2) 人的支援について

- LiSAって知っていた？ 67% やってみたい？ 25%
- ラーニング・アドバイザーって知っていた？ 50%
- 図書館のレファレンスサービスって知ってる？ 20%

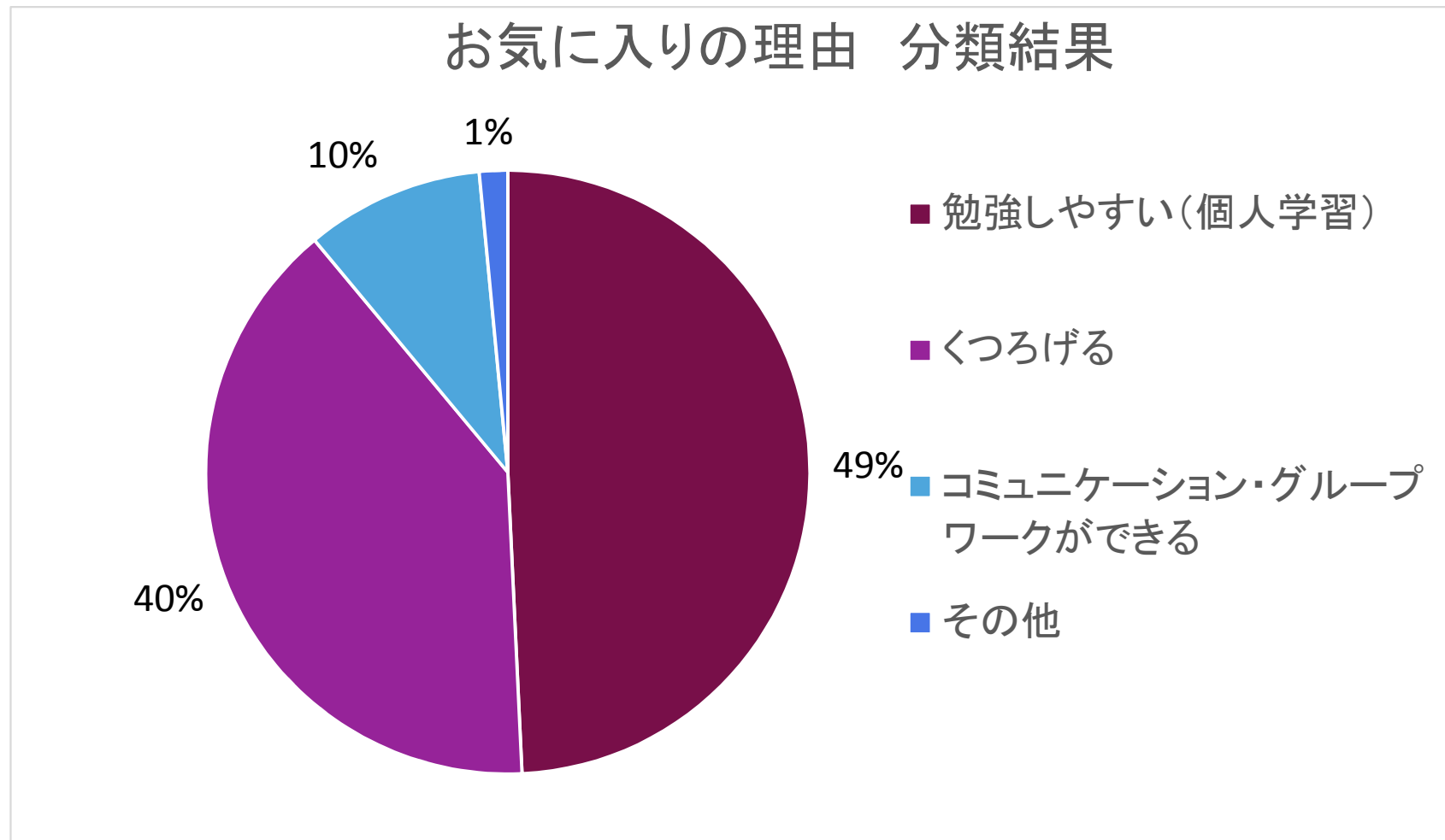
ワークシート結果分析 (餌取さんまとめ)

図書館内のお気に入りの場所



ワークシート結果分析

(餌取さんまとめ)



新図書館構想WGの取組み-5

● 学生へのアンケート

(3) 図書館にあったらいいなと思う空間機能は？

ー 学修空間：アクティブラーニング（能動的学修）のために必要なスペース（複数選択可）

○ <u>集中して学習／研究するための個別空間</u>	88%
○ <u>パソコンを使って自習／共同学習ができる空間</u>	82%
○ <u>学習サポートのためのオープンな空間／個別空間</u>	73%
○キャリア支援・キャリア教育のための空間	52%
○学習研究の成果物を作成するためのラボ（大型プリンター等）	50%
○e-ラーニングのための空間	40%
○パソコンやプロジェクタを使った授業（WS）ができる空間	25%

- 一位 パソコンを使って自習/共同学習ができる空間

二位 学習サポートのためのオープンな空間/個別空間

三位 パソコンやプロジェクタを使った授業（ワークショップ）ができる空間

新図書館構想WGの取組み-6

● 学生へのアンケート

(4) 図書館にあったらいいなと思う空間機能は？

ー コミュニケーションスペース(複数選択可)

○オープンなコミュニケーションスペース	70%
○飲み物を飲みながらコミュニケーションができるスペース	86%
○軽食を食べながらコミュニケーションができるスペース	70%

それは「図書館にあるからいいの？」

「図書館でなくても、学内のどこかにあればいいの？」

集中と協働
静と動の
両方が求めら
れている

学内のアクティブラーニングスペース確保 に向けた動き

- 文部科学省平成25年度「博士課程教育リーディングプログラム【複合領域型（横断的テーマ）】」に採択（10月）

「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける
理工系グローバルリーダーの育成：

物理・数学・情報の基盤力とチームスタディを基にしたお茶大型理工
学ソフトリーダー育成プログラム

- Project Based Team Study (PBTS) への挑戦：PBLをグループ学習からチーム研究に深化させたPBTSを実践する

キャンパス全体がアクティブ・ラーニングの場

本日の内容

- お茶の水女子大学の概要
- これまでの取組みと課題
- 新しい展開：新図書館構想
- **新しい展開：学習支援**
- これからの大学図書館

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-1

● 学生・キャリア支援センター

2007年以降継続的にコラボレーション

— キャリアカフェで、各種イベントが盛況！

内定者体験報告会／内定者による就活サポートコーナー

日常的な進路・就職アドバイス／キャリアデザイン相談

企業合同説明会（ブースを複数設置）／OG懇談会

● 情報基盤センター

図書館内のパソコン活用は全てITセンターとの協働

— 特別経費終了後の安定的サービスに向けて共同戦線

IT関連の学習環境（モノ／ヒト）の整備は経常的に必要

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-2

● 総合学修支援センター

- 学修プロセスの構築をサポートします
- 「複数プログラム選択履修制度」を全面的にサポート
- 学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談、学修指導などの支援を行い、本学の教育活動に資することを目的としています。
- 教職員や専門のスタッフなどに、複数プログラム選択履修制度に関するさまざまな相談をすることができます。

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-3

- 学習支援系の組織は？
- 教育開発センター
 - 多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援
 - 学修支援情報システム alaginの開発運用

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援」事業において開発した学生にとっての学修支援情報システム(時間割表示システム + 学修状況チェックシステム)です。
 - 学士課程における各科目のカリキュラム体系上の位置付や水準(ベンチマーク)を5種類のカラーコードで類別
いわゆるルーブリック？

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-4

- 授業の中で行われている(少人数制)
 - ・ 例: イスラム研究の方法～論文執筆まで
 - ・ オーダーメイド講習会: 文献検索～入手を図書館が講習
- 学科・コース、教員個人で行っている

> 各学部・研究科対象のアンケート

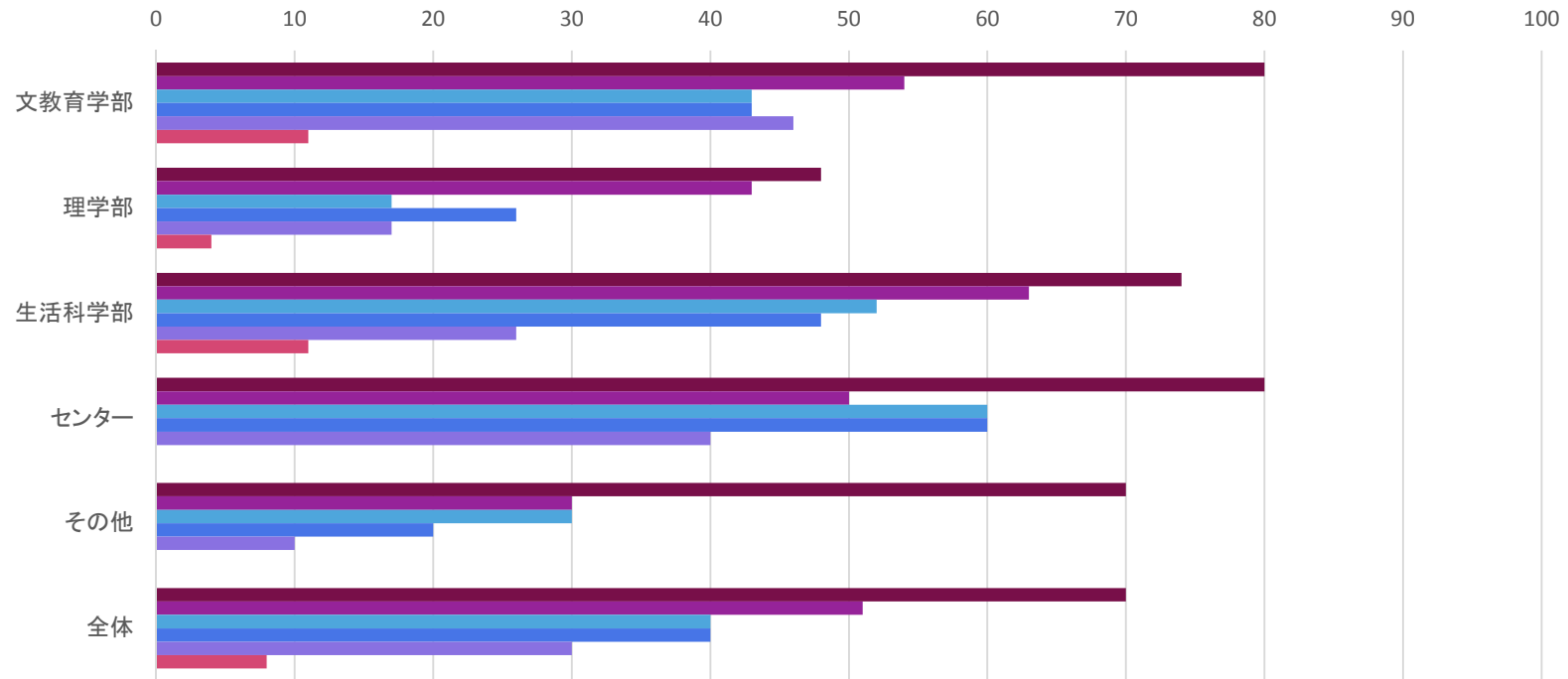
卒業論文・修士論文等の執筆の手引きについて

- ・ 「手引き」を作成されていますか? >>22の図書室に調査依頼
- ・ ご提供いただけますか? / Teapotで公開してもよろしいですか?
何らかの「手引き」作成: 半数以下
ピアサポートを取り入れている講座もある

教員アンケート結果分析

(井上さんまとめ)

学習支援/研究支援のためのスタッフについて求めること

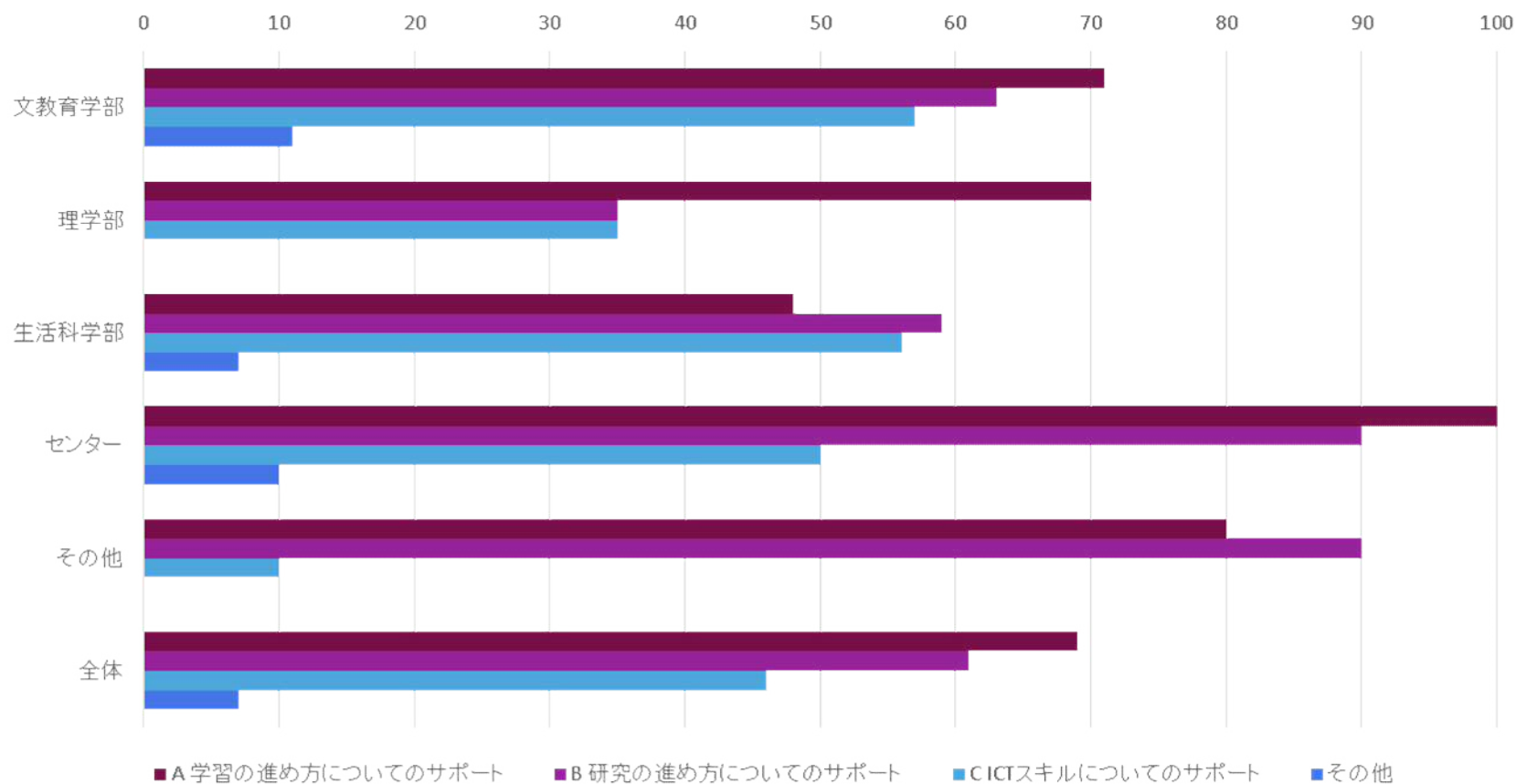


- A 情報リテラシー全般(課題発見～情報探索～レポート作成)にかかる教育支援
- B 初年次教育における支援
- C 卒論生に対する支援
- D 院生に対する支援
- E 授業／ゼミにおける支援
- その他

教員アンケート結果分析

(井上さんまとめ)

学習支援/研究支援のピアサポート(院生/学生からのサポート)について求めること



学習支援まとめ

- 学習支援は学内の各所で実践されているが全体として連携するには至っていない
 - スタッフやピアサポートによる学習支援に対する期待はそれなりに高い
 - 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている
- ハード面だけではなくソフト面で展開
- ニッチなニーズの掘り起し
- 個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割

新しいサービス(すぐにできるちょっとしたこと)

グローバルスタディーコーナー(2階)をリニューアルしました

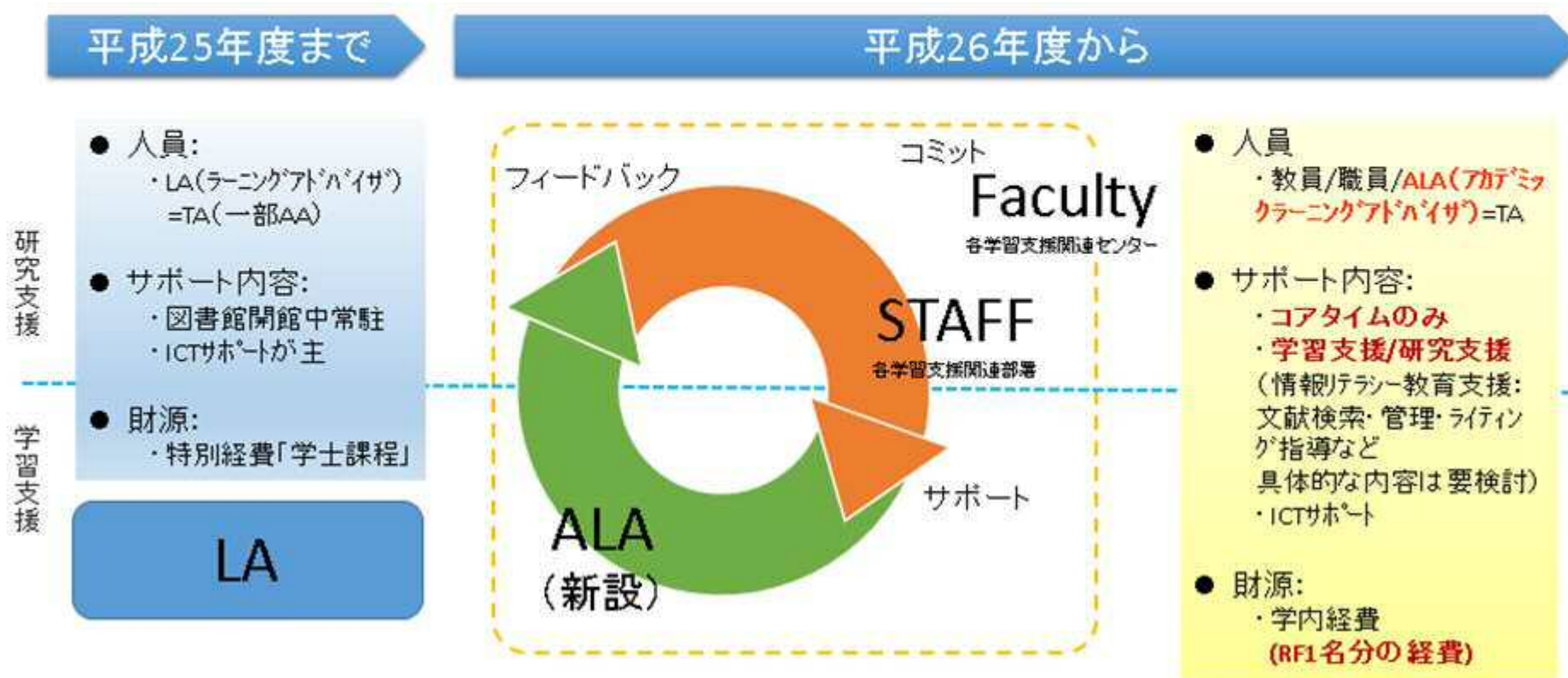
- 学内のグローバル教育・語学学習関連の書籍を集中配架したグローバルスタディーコーナーに、新たに語学学習ブース(2台)が導入され、ランゲージ・スタディーズ・commonsに。
(共通講義棟3号館)の分室となりました



- 分室愛称名 = Helene
The University Library World Language Learners' Workspace Annex
- ランゲージ・commonsが閉まっているときは、DVDなどを図書館で視聴することができます
- 周囲を透明なパーティションで区切り、ちょっとしたチャットができるテーブルと椅子を導入しました

図書館における学習支援プラン

図書館ラーニングコモンズ(LC)における 学習/研究支援機能の強化 Part II (案)



※新図書館構想WGから提案した人材育成方策を可能なところから前倒しで実施

※新図書館構想は建物だけではない。建物が建っていないなくても、できることはある！？

LALA (Library Academic Learning Advisor) が始動しました

• 2014年度メンバー

比較社会専攻 : 5名(後期:5名、前期:0名)
 理学専攻 : 3名(後期:1名、前期:2名)
 ジェンダー専攻: 3名(後期:2名、前期:1名)
 計: 11名(応募13名)



• 授業期間中

	9:00~12:00	12:00~15:00	15:00~18:00
月	理学／後期	比較社会／後期	ジェ／前期
火	比較社会／後期	理学／前期	比較社会／後期
水	ジェ／後期	理学／前期	比較社会／後期
木	比較社会／後期	ジェ／後期	理学／後期
金	ジェ／後期	比較社会／後期	理学／前期

• 授業期間外

	10:00~13:00	13:00~16:00
月	ジェ／後期	比較社会／後期
火	比較社会／後期	理学／前期
水	比較社会／後期	ジェ／前期
木	ジェ／後期	理学／後期
金	理学／前期	ジェ／後期

★内容: ICTサポートに加え、学習支援を行う

(主に、学部学生のレポート作成のサポートから着手。図書館だけで実施するのは難しいので関連する先生方や各センター、チームと相談しながら進めていきます)

★経費: 学内経費

★広報: 現在は試行的位置づけ。第2学期からは本格サービスと位置づける。先生方から学生さんにアナウンスをお願いしたい。

LALA (Library Academic Learning Advisor) が始動しました

• キックオフミーティング 4月7日(月)10:00-12:00

内容: 全員の顔合わせ、趣旨説明、自己紹介、第1回TP

参加者: LALA9名、スタッフ5名、オブザーバ:1名

自己紹介で出た話題:

アカデミックスキルズに関する経験とLALAとしての抱負

- ・体系的な教育は受けたことが無い(多数)
- ・研究室の先生や先輩からの個別指導が主(多数)
- ・先輩の卒業論文や修士論文を見て書き方などは自己流で学んだ
- ・アイデアがあってもそれをどう構成したらよいのか解らなかった
- ・ロースクールでレポートや論文の書き方を徹底的に教育された
- ・コースで卒論・修論の共通のマニュアルはある
- ・修論の執筆が非常に短期間で、大変だった。個別指導をしていただいた
- ・試行錯誤で苦労した点もあるので、後輩の役に立ちたい(複数)
- ・LALAとしてアカデミックスキルズを身に付けつつ還元したい(複数)
- ・試行錯誤が多かった。論文の書き方を学べる場があれば、時間のロスを防げ効率が上がるのではないかな



キックオフミーティング

環境整備の一環として、レポート、実験ノート、論文の書き方など、アカデミックスキルズに関する図書を収集。
先生方からの評価／推薦を受けたい。

LALA (Library Academic Learning Advisor) が始動しました

- トレーニングプログラム (TP)

- (1) 図書館情報探索講習会 (附属図書館: 4/7実施)

- (2) 論文の技法 (文教育学部・三浦徹先生: 5/29実施)

- (3) ライティング支援について (外部講師: 6月～7月実施予定)

- 情報共有／コミュニティでPDCA

- LALAとスタッフのMLで情報交換

- お茶大Moodle (Chimes: チャイムズ) で業務日誌

- 情報共有

- サービスにフィードバック

キャリア教育の科目「お茶の水大学論」でも紹介。
学生のリアクションシートに多くの反響。

本日の内容

- お茶の水女子大学の概要
- これまでの取組みと課題
- 新しい展開：新図書館構想
- 新しい展開：学習支援
- これからの大学図書館

新しいサービス・動向について(特色を出しつつ連携)

お茶大、千葉大、横国大の大学図書館連携にかかる申合せ

<https://www.facebook.com/coybrary>

- 三大学の学長名による申合せ:平成26年3月25日
- 各大学の附属図書館の教育・研究支援機能の充実及び高度化に向け、単独大学では不可能な課題解決手法の開発・実施に取り組む
- わが国初めての共同分散保存 (シェアード・プリント)に着手



千葉大学前学長・齋藤康氏、お茶の水女子大学学長・羽入佐和子氏、横浜国立大学学長・鈴木邦雄氏

新しいサービス・動向について(特色を出しつつ連携)

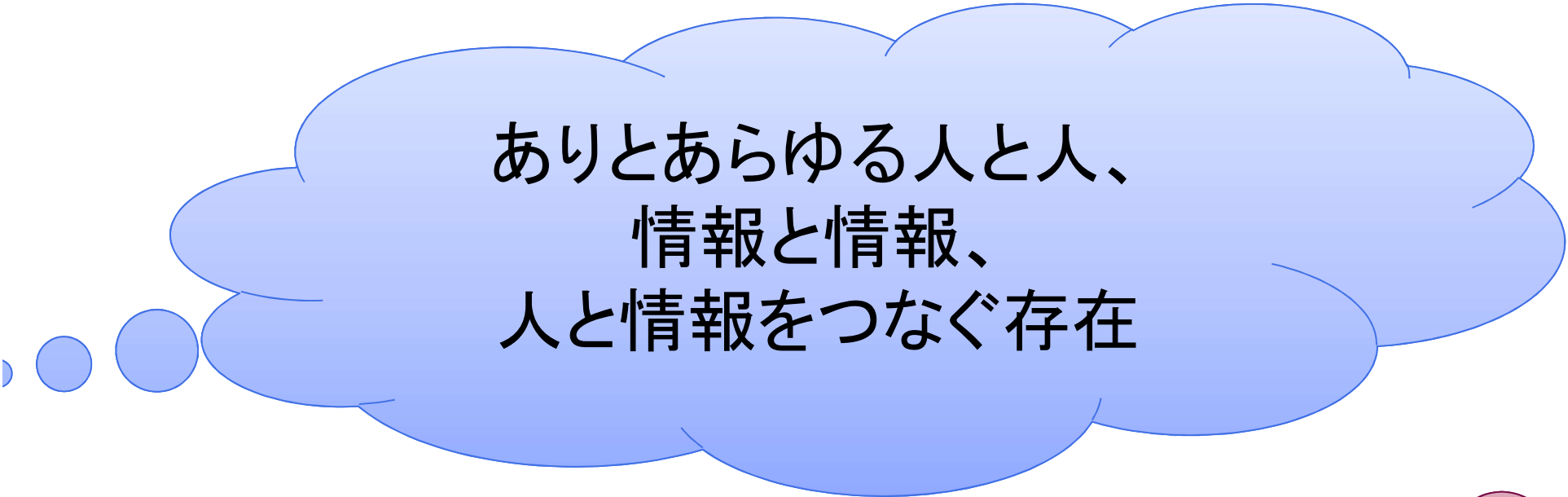
お茶大、千葉大、横国大の大学図書館連携にかかる申合せ

<https://www.facebook.com/coybrary>

- 取り組む予定のテーマ

- (1) アクティブ・ラーニング支援機能に関する事例共有及び手法開発に関すること。
- (2) オープンアクセスに関する事例共有及び手法開発に関すること。
- (3) 電子資料の効率的な共同導入に関すること。
- (4) 紙媒体資料の効率的な共同保存(シェアード・プリント)に関すること。
- (5) 今後の効率的な図書館システムの在り方に関すること。
- (6) 本取組を通じた、各大学の附属図書館における人材の育成及び職能開発に関すること。
- (7) その他申合せの1に規定する目的に合致した事項に関する調査、立案及び実施に関すること。

● 情報専門職員・ライブラリアン って、どういう存在なんだろう



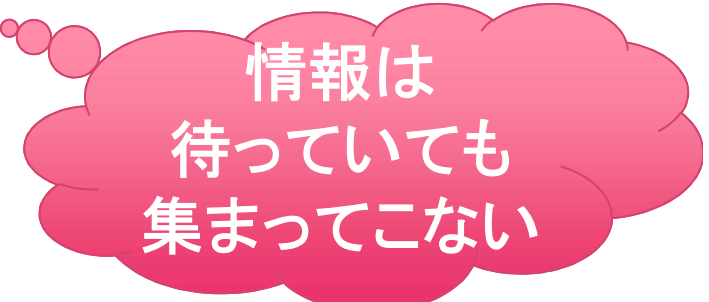
ありとあらゆる人と人、
情報と情報、
人と情報をつなぐ存在

改めて、大学図書館ができること

- 大学内外の情報をつなぐ

図書館は全学／全領域に関わるだけに、どこに何があり、どこでどんな取り組みをおこなっているか、把握できる立場にある
→ニッチなニーズの取り込み


- 大学のショーケースになる



情報は
待っていても
集まってこない

教育メニュー：授業のコンテンツ、
キャリア支援、グローバル教育、ICT教育
研究メニュー：研究者データベース＋機関リポジトリ、
E-Bookなど教育研究情報発信支援
→ワンストップサービス（場所、人、モノ）

そのためには



ヒントは
外にある
答えは
内にある

- Unlearningする
成長し続けるために
- ソーシャル・アントレプレナーシップ
(Social Entrepreneurship)の精神を持つ
起業家精神をもって社会的な問題の解決に取り組む
- 共に学び・共に成長する
空間／蔵書・コンテンツ／人
すべてにおいて模索し、実践し続ける